

わい化園の雪害防止対策

研究のねらい

多雪地帯のわい化栽培普及に当たり、雪害は大きな障害になっている。そこで、雪害による折損要因を明らかにするとともに、各処理の雪害防止効果を検討する。

研究の成果

1. 折損側枝の特徴

最高積雪深より下位に位置し、しかも基部が太く、頂芽数が多い長大な側枝に折損が多かった。

2. 樹形の相違による雪害の差異

細がた紡錘形＞パルメット≒コルドンの順で、細がた紡錘形に折損が多かった。

3. 各種雪害防止処理の差異

細がた紡錘形では、側枝結束、交差分枝、交差分枝＋雪層切断、交差分枝＋側枝結束の各処理区は放任区より側枝折損率が低かったが、雪層切断区と放任区の差異は見られなかった。また、コルドンとパルメットの場合でも雪層切断の効果は見られなかった。

4. 総括

側枝の短い樹形では雪害が少ない傾向にあり、また、細がた紡錘形では交差分枝処理や結束処理の雪害防止効果が認められた。しかし、雪層切断の効果は認められなかった。

主要な試験データ



交差分枝状況



交差分枝処理の埋没状態



交差分枝処理の雪害阻止状況



放任区の雪害発生状況

発表資料

1. 野呂昭司ら (1981). わい化リンゴ樹の雪害防止に関する試験 (第2報) 樹形別、及び交差分枝、雪層切断、結束等の処理別比較. 園学要旨 昭56秋: 20-21.
2. 野呂昭司 (1982). リンゴ園の雪害とその対策. 実践「あおもりの農業」読本: 136-137.